

シュヴァイツァー

2016 年本試

問 7 次のア～ウは、責任をめぐる考察を展開した様々な思想家についての説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

7

ア ハンス・ヨナスは、科学技術の発展により地球環境や人類の存続が脅かされている今日、現在世代は未来世代の存続に対する一方的な責任を負っていると説いた。

イ ラッセルは、核戦争によってもたらされる人類絶滅の危機を回避するために、著名な科学者とともに核兵器廃絶を訴え、平和に対する科学者の責任を説いた。

ウ シュヴァイツァーは、すべての生命には生きようとする意志が見いだされるとし、生命への畏敬に基づき、あらゆる生物の命を尊ぶことが人間の責任だと説いた。

- | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ② | ア | 正 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ③ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ④ | ア | 正 | イ | 誤 | ウ | 誤 |
| ⑤ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 正 |
| ⑥ | ア | 誤 | イ | 正 | ウ | 誤 |
| ⑦ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 正 |
| ⑧ | ア | 誤 | イ | 誤 | ウ | 誤 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 7	7	①	3

2013 年追試

問 9 下線部 i に関連して、次のア～ウは、責任について考えた思想家たちを説明したものであるが、それぞれ誰のことか。その組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 9

- ア 自然を支配する近代的思考の ^{ごうまん}傲慢さを批判し、あらゆる生物の生命を価値あるものとして尊ぶことが倫理的な存在としての人間の責任だと説いた。
- イ 核戦争によってもたらされる人類絶滅の危機を打開するために、世界の科学者とともに、核兵器の禁止と平和に対する科学者の社会的責任を唱えた。
- ウ 実存の三段階を考え、社会における自分のあるべき姿を追求し、それに責任をもって生きていこうとするあり方を倫理的実存とした。

- | | | |
|--------------|------------|------------|
| ① ア シュヴァイツァー | イ ラッセル | ウ キルケゴール |
| ② ア シュヴァイツァー | イ キルケゴール | ウ ラッセル |
| ③ ア ラッセル | イ シュヴァイツァー | ウ キルケゴール |
| ④ ア ラッセル | イ キルケゴール | ウ シュヴァイツァー |
| ⑤ ア キルケゴール | イ シュヴァイツァー | ウ ラッセル |
| ⑥ ア キルケゴール | イ ラッセル | ウ シュヴァイツァー |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 9	9	①	3

2007 年本試

問 4 生命の権利も自然権の一つであると考えられている。「生命への畏敬^{いけい}」を
道徳の根本原理とし、人間の生命ばかりかあらゆる生物の生命を守れと説いた
思想家として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 26

- ① シュヴァイツァー ② ルソー
③ キルケゴール ④ サルトル

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 4	26	①	2

2004 年本試

問 5 生と死に関して，次のア～ウはそれぞれ ^{だれ}誰 の思想であるか。その組合せとして正しいものを，下の①～⑨のうちから一つ選べ。 34

- ア 人間は，死や苦しみなど，自分の力ではどうすることもできない状況に直面したときに，その不安と絶望を越えて，超越者に出会い，しかも他の実存との「愛しながらの戦い」によって連帯することで，真の実存に目覚める。
- イ 人間も生物であり，生きるために他の生き物を傷つけざるをえない。しかし，倫理的な存在として，人間はすべての生命ある存在を愛さなければならない。この ^{かっとう}葛藤の中で各人の責任において行動を決定するのである。
- ウ 人間は，身体的存在としては，圧倒的に優勢な宇宙に比べ，きわめて無力で卑小である。だが，人間は理性的存在であり，自分が死ぬことを知っている。考え，知ることによって人間は偉大である。

- | | | |
|------------|------------|---------------|
| ① ア サルトル | イ ガンディー | ウ エラスムス |
| ② ア ヤスパース | イ シュヴァイツァー | ウ パスカル |
| ③ ア キルケゴール | イ ガンディー | ウ ピコ・デラ・ミランドラ |
| ④ ア サルトル | イ ヘーゲル | ウ ピコ・デラ・ミランドラ |
| ⑤ ア ヤスパース | イ シュヴァイツァー | ウ エラスムス |
| ⑥ ア キルケゴール | イ ヘーゲル | ウ エラスムス |
| ⑦ ア サルトル | イ ガンディー | ウ パスカル |
| ⑧ ア ヤスパース | イ ヘーゲル | ウ パスカル |
| ⑨ ア キルケゴール | イ シュヴァイツァー | ウ ピコ・デラ・ミランドラ |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 5	34	②	3

2002 年本試

問 7 近代以降の宗教論に関する記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ選べ。

9

- ① シュヴァイツァーは、伝統的なキリスト教的倫理思想を人間中心主義であると批判し「生命への畏敬」を提唱したが、同時にそれは伝統的な宗教を超える新しい宗教の創出となった。
- ② ニーチェは、強者を否定し弱者を讃えるキリスト教の道徳は強者に対する弱者のルサンチマン(怨み)から生まれたものであり、それに代わる新しい価値を創造しなければならないと説いた。
- ③ キルケゴールは、当時のデンマークでも影響力のあったヘーゲル哲学を批判しつつ、本来的な自己とは神の前に立つ単独者としてのみ可能になると主張した。
- ④ ユングは、個人的無意識と集合的(普遍的)無意識とを区別し、宗教的象徴は集合的(普遍的)無意識の中に存在する元型が意識によってイメージとして把握されたものであるとした。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 7	9	①	3